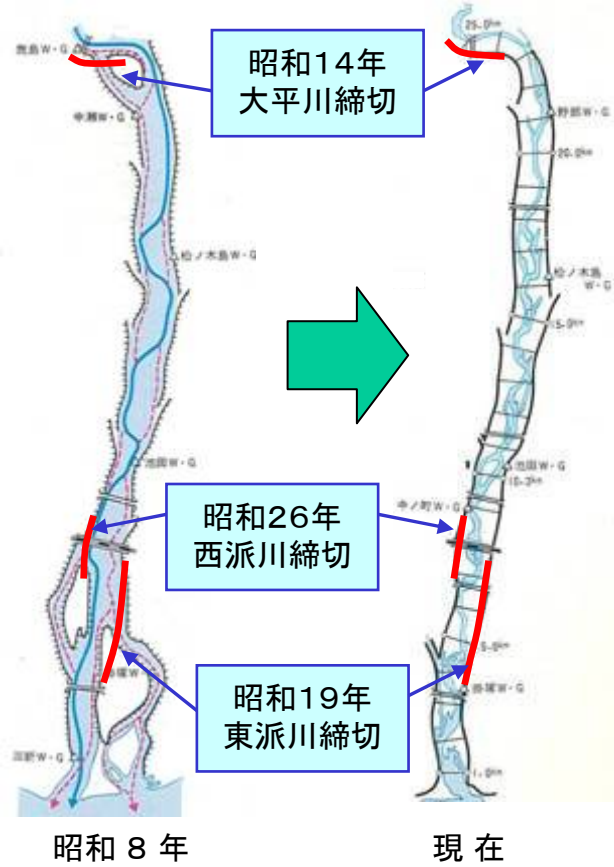


天竜川西鹿島地区河川利用推進事業 ～水辺の交流拠点整備～（国土交通省 浜松河川国道事務所）

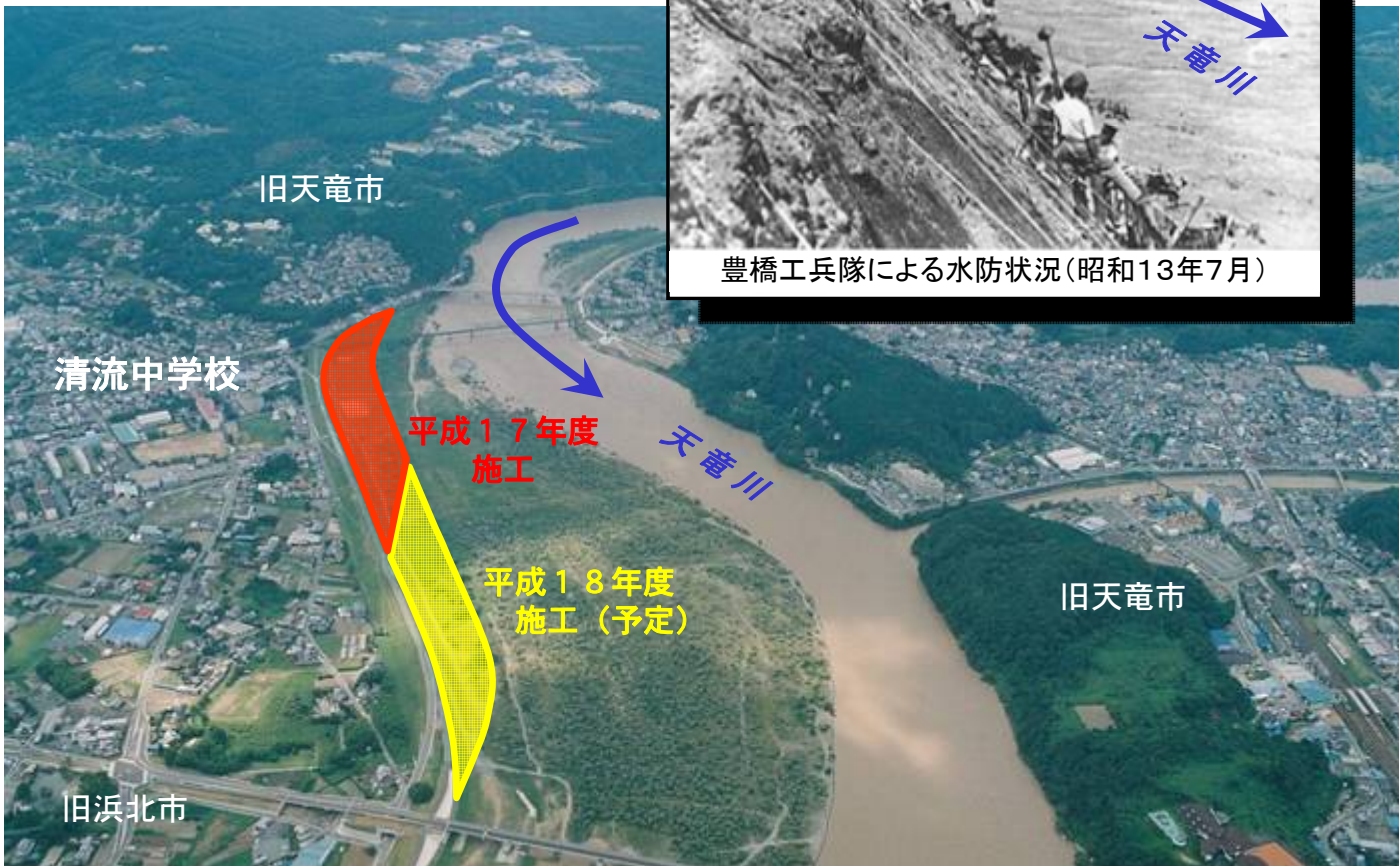
【目的1:治水】頑丈な堤防で洪水を防ぐ



天竜川は、中流部の山間地を抜け鹿島橋下流付近に至と昔から網状に流れ、『暴れ天竜』として流域住民に恐れられていた。

治水事業は古くは奈良時代にさかのぼり、「天寶堤」や「彦助堤」など歴史的遺産として今もその面影が残っている。昭和13年には上島・中瀬地先の破堤により大災害を受け、翌年大平川締切工事を完成させるとともに、下流部の東・西派川を昭和26年までに締切、ほぼ現在の直線的な天竜川が形成されてきた。

西鹿島地区は、天竜川が「S」字型に湾曲しており、洪水時には水衝部となることから、本事業により堤防を緩傾斜に改築し、堤防を頑丈なものとして、洪水から人家を守ろうとするものである。



【目的2:利用】高水敷を多目的広場等に利用

完成イメージパース



緩傾斜堤 高水敷をスポーツ公園として利用 低水護岸



当地は120年余の歴史を有す「鹿島の花火」の開催地として人々に親しまれており、河川堤防は、その棧敷として利用されている。

花火大会の前には地域住民や県・市が一体となって河川の除草や清掃活動が行われるなど、河川愛護も盛んな地域である。

また、市町村合併に伴い、地域の憩いの場となる河川空間を活用した運動公園計画が立案され、地域住民の河川環境整備に対する期待は非常に高い。

このため、堤防を緩傾斜に改築し、水際に近付きやすい低水護岸を施工することにより、河川空間の利用推進を図るものである。



花火大会時の高水敷利用状況



中学生による河川美化運動